

日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)
www.gospeljapan.com/dd/

宣教の喜び

マザースカウンセリングセンター 理事長

鈴木 留蔵



「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」(テモテ第一の手紙二章四節)

二十一世紀最初の年を迎えて、あつと思う間に一年が過ぎ去りました。昨年一年間を振り返ってみて、神から「おまえはこの一年間何をしていたのか」と問われたときに何と答えられるでしょうか。主が喜んで下さる答えは、ただ一つであると思います。「キリスト・イエスに何人を導いて何人の人々が救われました」と答えられる人は幸いであると思います。

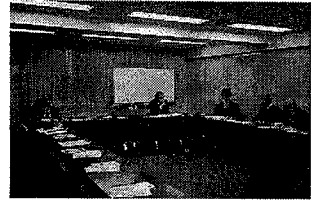
イエス・キリストは三十歳のときから宣教を開始して言われました。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟ペテロと呼ばれているシモンとその兄弟アンデレをご覧になりました。彼らは湖で網を打っていた漁師でした。イエスは彼らに言われました。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」彼らはす

ぐに網を捨てて従っていきました。そこからなお行かれると、イエスは別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネがゼベダイと一緒に舟の中で網を繕っているのをご覧になり、二人をお呼びになりました。彼らもすぐに従っていきました。イエスは弟子作りから始められました。それから宣教を開始され「悔い改めなさい。天の御国が近くなったから」と、あらゆる折に人々に話され宣教されました。

現在、日本のクリスチャン人口は1%といわれております。そのうち聖められて、キリストの本當の弟子になって伝道できる人は何人いるでしょうか。キリストの弟子となっている者は喜んで伝道をします。私は二〇〇二年を迎えて元旦礼拝で新しく恵みをいただき、聖協団の新年聖会に出席し、韓国信徒連盟より招待されて韓国にも参りました。韓国教会代表者聖会に出席し、信徒連盟新年聖会でメッセージをさせていただきました。その後、牧師祈祷園に導かれました。この祈祷園は敷地一万五千坪に十七億円で建物が建築され、ホテルのようなルームがあり、百五十名が宿泊でき、祈祷集会所は七百名以上の人々が祈ることができ、半徹夜または徹夜祈祷会と自由に祈り抜くことができるのです。なんと幸いなことでしょうか。

日本では祈る人はいるが、宣教のために「祈り抜く」人は少ないといわれております。今こそ日本のクリスチャンは聖められてキリストの弟子となつて祈り抜くこと、そして日本の九十九%の人々の救いのために、全力を注いで命をかけて宣教の業に励むことができるよう祈るものであります。

伝団協情報交換会報告



二月七日午後二時からお茶の水クリスチャンセンターで開催された本年度の情報交換会は、礼拝、情報交換会、折り会の三部構成で行われた。

第一部礼拝。「はじめに」「聞けや愛の言葉」を賛美し、続いて姫井雅夫役員が詩編二十七編七十四節よりメッセージをとりついで、「これはダビデによる詩。ダビデの生涯は数多くのアップダウンがあり、この詩も窮地に追い込まれて祈ったものと見られる。『主よ』と祈る信仰者ダビデ。伝団協所属団体の多くは献金によりその財政が支えられているが、不況で献金も減り、厳しい経済状況に直面している。主のために働いている間、主が我々を見捨てることはない信じ、ダビデが祈ったように祈りつつ歩みたい。伝団協の活動が近年停滞気味なのは、それぞれの団体が人材的、経済的にも苦境にあることが影響しているのか。しかし、我々は主を信じ仰いでゆきたい。」辻岡健象師の祈りをもって礼拝を閉じる。

第二部情報交換会。まず、姫井役員より伝団協の現状と課題について説明があった。「以前の活発さを欠いた伝団協を今年に変えていこうと、加盟団体訪問ツアーをはじめ新たな企画や試みをしているが、企画も参加も役員ばかりという現状。伝団協のあり方を考えなければならぬ。伝団協規約は一九八五年六月十三日に施行された。第四条に、伝道団体の相互理解、相互協力、相互支援、伝道団体と教会との連携が明記されているが、伝団協への集まりへの参加数が減少しており、伝団協自体に加盟しない団体も出てきた。先日、伝団協会長の村上師と副会長多胡

氏と、伝団協のあり方や方向性について話し合った。伝団協はJEAを通して発言できるようになり議決もできるのであるから伝団協の役割は果たした、という見方もできる。しかしJEAに直接加盟できず伝団協に加盟している団体もある。今後活動継続してゆくことを前提に、何をすべきか、どの方向へ向かってゆくのかを求めつつ歩みたい。」(伝団協情報交換会議録参照) 続く第三部は少人数に分かれ、「伝団協のあり方と目指すべき方向」と「泊研修会について」のテーマで話し合い、その後各グループの発表。また、その間に参加者は一泊研修会についてのアンケートを記入した。

最後に「歌いつつ歩まん」を賛美し、洪沢浩二師の祈りをもって午後四時終了した。
(参加団体名) 福音主義医療関係者協議会、このころの友伝道、お茶の水クリスチャンセンターOCC、総動員伝道、小さな命を守る会、内外盲人ミッション、日本キリスト伝道会、太平洋放送協会、日本伝道者協力会、日本聖書協会、いのちのことば社 (日本聖書協会 鈴木奈々・記)

伝道団体訪問ツアー



日本聖書協会 二〇〇一年十二月十日、年の終わりに近いこの日、第三回目の訪問ツアーが行われた。今回は銀座にある「日本聖書協会」。今回も参加者が少なく、七団体からの参加者だった。まず毎月一回開かれていくという祈祷会に合流参加。聖公会総主事の奨励の後、祈祷課題を祈った。昼食後、日本聖書協会の



沿革を山宮総務主事から伺い、森口広報担当から、いただいた資料に沿って現在の活動状況を聞いた。昨年二〇〇〇年が創立百二十五周年にあたり記念式典が開かれ、ビデオも制作された。そのビデオを見た後、聖書図書館と事務局を案内していただいた。

生命の言葉「聖書」をモットーに聖書普及活動にあたっている。聖書協会世界連盟があり、日本も百四十カ国の一つとして加盟している。普及活動の一つの企画として、日本の各地で「聖書展」が行われてきた。特に一昨年二〇〇〇年は区切りの年でもあり、「東京大聖書展」が開催され死海写本が初めて日本に持ち込まれ、五万人以上の人々が来場した。シドニー・オリンピックでは英日の新約スポートバイブルを配布した。毎年、九十万冊の聖書が出ているとのこと。そのうち六十万冊はギデオンの協会が購入し、学校や病院、ホテルに配布している。教会を通して出ていく数は少ないとのこと。もっと多くの人々が救われ、教会を通してそれらの人々に届けられる数が増えないといけないと感じた。戦後、海外から日本に送られた聖書の数は七百万冊。現在は日本から海外へ聖書を届けようと、国際聖書製作が進められている。世界には二十八億もの人々が聖書を一度も手にしたことがない。しかし日本の技術によつて良い質の聖書が作られ、世界の各地に届けられている。

最近「聖書全巻通読運動」が盛んになっている。約九十六時間かけて聖書全巻を読み通すのである。昨年は十三教会で通読会が持たれたとのこと。各団体が主から与えられた使命に向けて一心に奉仕しておられる姿に感動を覚えた。(総動員伝道 姫井雅夫・記)

「Hiib.A. 高校生聖書伝道協会」

代表 吉枝隆邦



●働きの始まり：アメリカのHiib.A.から送られたケン・クラーク宣教師が、一九五一年東京で堀内顕師とともに、高校生伝道専門の働きとしてスタートしました。マイヤー宣教師、佐々木和子師、久野木昭夫師も加わって神奈川県にも広がり、一九六四年から大竹師が関西地区を始めました。初めはアメリカと親子の関係でしたが、一九七三年に日本Hiib.A.として独立して姉妹関係になり、日本の教会に支えられて教会の腕として仕える奉仕を高校生伝道の分野で果たしてきました。



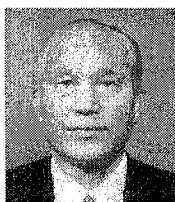
●現在の働き：関東一都三県、関西一府一県で、十一人のフルタイムスタッフ、五人の宣教師、二人の協力スタッフが直接、約三百人の高校生を指導しています。ウィークデイの午後二十分、五箇所で行う定期集会のほか特別集会、春・夏・冬の休みに行うキャンプなどを通して、高校生をキリストによる新生に導き（Born Again）、聖書に基づく信仰生活の訓練を与えて、キリストの証人として家庭や学校に送り出します。初期にはほとんど未信者の家庭から救われましたが、現在は半分以上がクリスチャンホームからです。

●願い：教会の高校生を送って訓練されて教会が活気付くようにHiib.A.を利用してほしいのです。さらに日本全国に広げられるために、各地の諸教会に招いていただきたいです。

日本中の全クリスチャンにお願いします。「あなたの卒業した高校のために、毎日祈ることを始めてください」。きつと何かが起こり始めるでしょう。

「キリスト教社会人連合」

会長 西本誠一郎



●キリスト教社会人連合は、クリスチャンとして社会や家庭、職場等で起こってくる現実の問題に対してどう考え対応していくのが聖書的であるか、教派を超えて裸で祈り話し合っていく会として発足しました。また、弱々しい信徒ではなく神から与えられた知恵と力に立って、ダイナミックな積極思考によって与えられた能力を十分活かしていくため、今から二十年以上前に大阪クリスチャンセンターで発足式を行いました。講師は経営コンサルタンの高田氏を招き、約七十名近い人々が集まりました。今のVIPと近い考えに立ってスタートしたのです。会長は西本誠一郎、副会長米田喜三郎、総務小林記者たちの協力を得て始まりましたが、その後すぐCBMCの日本での組織が生まれ、活動としては同時進行していましたが次第にCBMCが中心となっていきました。

●今日までの経過としては、主にビジネスマンを中心に講師として探検家の植村正之氏を招いたこともあり、何年かの間は月一回の例会を中心に行っていました。その後は主に会長である西本が全国各地の教会、経済界などで伝道とともに証しし、講演をしてきました。特に教会では、社会人連合の理念に立って信徒に話をする中で、ダイナミックな信仰に立った伝道とビジネスの両立を訴えてきました。また証しの場として教会においては、北海道から九州まで、佐

2002年度総会のお知らせ

伝道団体連絡協議会・2002年度総会を以下の通り開催します。加盟各団体は1名以上出席をお願いします。

日時：4月16日(火) 14時～16時

場所：OCCビル

(お茶の水クリスチャンセンター)

415号室

渡島から尾久島まで三百以上、最近では天満教会、大和カルバリーチャペル、川崎インマヌエル教会など、また二月一日からはハワイのマキキ聖城教会をはじめインターナショナル日本人教会VIPハワイ支部発会式での講演、ハワイラジオ放送も合わせて奉仕させていただきました。

●経済界においては、梅田ロータリークラブなど大阪を中心に行い、県立名張高校はじめホームレスや少年院など幅広く証しし講演を行ってきました。現在、日本経済は国家的大試練の時代であり、クリスチャン実業家としても困難の中で苦勞している時ですが、そういう時代だからこそ、祈りと信仰に立って伝道と対話の必要性を感じています。残る生涯を一層その使命に立って進みたいと願っています。

「伝団協」加盟団体「ニュース・フラッシュ」

●このころの友伝道全国連合会
このころの友伝道第四十九回全国大会

と き・二〇〇二年八月二十七日(火)

テーマ・「あなたは良い知らせを伝える者」
(ローマ十一・十五) 参加歓迎。

●総動員伝道

今までの「よいあかしびと」の教材は十二課でしたが、今回発行しました改訂版は七課です。教師用五百円、信徒用セット八百円です。ぜひ教会でまとめてご購入ください。さっそく訓練会をお始めになってはいかがでしょうか。

●日本伝道者協力会

春の一日研修会 四月十九日十一時から十七時、会場は土浦めぐみ教会、講師は清野牧師です。詳細はE・Fまでお尋ねください。

〇三・三三一九一・五〇三五

●キャンパススクールセード

映画ジーザスの一般劇場での上映が決定しました。五月上旬、渋谷・池袋の単館で上映予定です。読売新聞やウェブサイトによる広告が展開されています。

●EHC (全国家庭文書伝道協会)
サッカーW杯に向けたトラクト「ゴール二〇

〇二」を五十万部印刷。各地域教会が購入し、試合開催地の住民、観戦客へ配布していただく予定です。

●日本聖書協会

インターネット上からダウンロードできるデーター聖書「JNet Bible」が四月一日発売。新共同訳全文が利用可能。定価千円。お求めは<http://jiblenet.jp>。

●小さないのちを守る会

世俗の波が教会の中にも押し寄せて来ています。いのちの尊厳と性の大切さをまず教会が叫び、実践しなければという使命感にますます燃えて、教会内外に啓蒙活動が続いています。

●PBA (太平洋放送協会)

創立五十周年感謝会と伝道ゼミを各地で開催しています。放送伝道を私の伝道として活用していただけますように。また新スタジオと新設備のための募金活動も進めています。

●いのちのこば社伝道グループ

今年二月より毎朝の礼拝を御言葉によるグループデポジションと分かち合い方式に変更。全スタッフ一人一人が主の語りかけを静かに聞き、献身の思いを新たにさせていただいています。

(伝道団体連絡協議会とは)

キリスト教界には大きく分けて二つの分野があります。キリストの十字架の血によって罪赦された人々の集まりとしての「教会」と、キリストチャンになった者たちがそれぞれ使命感をもつて専門的な分野で伝道活動、福祉活動などを行っている「伝道団体」があります。この二つはともに協力し合って神の福音を伝え、神の国の拡大に務めています。教会と伝道団体はともに助け合う必要があります。伝道団体がバラバラに活動していたのでは、教会にとつて協力しにくいし、伝道団体相互にとつても力を欠くことになりません。そこで連絡のために一つになろうと「伝道団体連絡協議会」が生まれました。現在は約五十の団体が傘下にあります。伝道の手段階別・対象別(子ども、中学生、高校生、大学生、社会人、婦人など)による団体など。

(献金の御願い)

各団体の多くは教会やクリスチャン個人、クリスチャン企業による献金によって成り立っています。しかしながらここ数年は多くの団体で経済的な困難に見舞われ、苦渋を味合わされています。教会とともに主の働きをしています「伝道団体」のために祈り、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

(郵便振替〇〇一五〇一〇一五四六四四四)

発行日	二〇〇二年三月三十一日
発行者	村上宣道
編集者	萩生田充